

(別紙4(1))

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600062		
法人名	社会福祉法人 和江会		
事業所名	グループホーム わがの里		
所在地	岩手県北上市下江釣子11地割2番地17		
自己評価作成日	平成27年7月30日	評価結果市町村受理日	平成28年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・入所者の笑顔が毎日見られ安心して、生活出来るように見守りや声をかけながら支援しています。家族のように側に寄り添い生活のお手伝いをしています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;Ji_gyosyoCd=0390600062-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Versi_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;Ji_gyosyoCd=0390600062-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Versi_onCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成27年8月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>緑に囲まれた郊外の住宅地にあり、恵まれた環境である。母体法人との連携、協力関係がしっかりしており、母体法人が運営する、特養ホーム、保育園の園児、デイサービス等との交流を持つ等、相乗効果を生んでいる。職員全員が介護福祉士資格を取得していることや、笑顔も多く、安心感のあるケアが行われている。食事についても、職員と利用者が一緒にテーブルを囲み、家族的雰囲気で行っている。玄関の展示スペースには、利用者個々のアルバムがあり、利用者の日常の様子を見ることができる。「排泄チェック票」を活用し、利用者本位の排泄介助に努めている他、家族負担の軽減を図ろうと、尿取パットの利用を工夫する等、費用の節約の取り組みも行っている。医療連携体制のもと、利用者の適切な健康管理を行っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつも笑顔で安心して暮らせる日々を目指して」 ・まごころこめて生活のお手伝いをします。 ・家族のようにいつもあなたのそばにいます。 を理念とし、努力しています。	理念は、玄関に掲示されている。理念について、法人内の運営会議において話し合いを持っている。事業所内では、年一回倫理をテーマにした話し合いを持ち、そのとき理念についても検討されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加している。 ・鬼の館へ催し物の見学。 ・地区行事への参加	目標達成計画で掲げた「世代間交流」と「地域との繋がり」が更に活発になり、小学校の運動会や保育園とのカレーパーティ等で交流している。地域の清掃活動にも積極的に協力している。また、商工会や保育園の父母の協力のもと、法人で行う夏祭りは、地域の大きな楽しみともなっている様子である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々のケアを実践をしながら、認知症への理解を深め、地域に発信出来るように努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月ごとの会議を実施している。 ・利用者の生活の様子を報告し、家族や委員の方達からも意見を頂いている。	ホームからの状況報告や、ヒヤリハットについて話し合わせ、意見交換が行われている。様々なイベント時の写真を、委員の方々に見ていただき、感想や意見も頂きサービスの向上につなげている。防災関係についても、毎回、話し合われている。	地震の多い昨今である。法人母体が隣接しており、安心感もあり、合同訓練もなされているが、緊急時に備えるため、消防署職員にも出席を依頼するなど、プロからの細部にわたる専門的な指導もいただくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員に包括支援センターより参加頂いて意見を伺っている。また、地域医療の連携等についてもアドバイスいただいている。	委託先の包括支援センターが推進会議に出席され地域医療(医師・看護師との連携・あり方など)や利用者の状況に対するアドバイス等を頂きサービス向上に活かしている。また認定更新時に利用者の暮らしぶりを市の担当者に話し、連携を深めるように努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間や突発的な場合には含みを持たせるが、原則として行なわないこととしている。。	利用者は穏やかに過ごすことが多く、不意な外出をする方も居ない状況である。玄関や居室に、センサーが設置されており、日中の玄関は、センサーを解除している。職員の見取りにより、安全に過ごしている。居室のセンサーは日中もスイッチが入っており、動きがあった際に、利用者の名前がコールされる感知システムとなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・講演会等に参加し、職員に伝達している。また職員会議で研修機会を設け考え方を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・職員会議等で研修の機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、入所前に説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進委員の中に利用者家族も委員として参加頂いている。 ・面会時に家族の意見や要望を聞くようにしている。	面会時にはホームから状況報告をし、家族から率直な意見・要望を頂いている。話しやすいような環境づくりに配慮している。毎月、家族へ見やすいよう工夫した利用者状況報告書も送っている。ホームと家族の良好なコミュニケーションが保たれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議には、全員参加で意見を交換している。	毎月の職員会議や、日々のミーティング時に気付き(時間のロス対策で買い物カゴの購入・混雑しない道路の選択・洗濯物干し竿の移動・風呂場の手すり設置等)を話し合い、効果的に業務に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、職員の意識などの確認をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には、積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しているので、研修等には参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所前の自宅訪問等を行い、本人からの話を聞くなどの対応をしている。 ・顔見知りになる機会を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に自宅訪問し、家族の話を聞いたり実際に本人、家族が施設に来所してもらい、どのような所なのか確認してもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と話し合いながら、他のサービスの利用状況を確認し、入所日を決定するなどして対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	そばに付き添いながら話を伺い、家族のようにいられるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などは、生活の様子などを伝えながら本人の思いを伝えたり、家族からの意見を伺いながら対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の親類に来所頂いたり、自宅周囲の方との関係を継続できるよう努めている。	同法人のデイサービス利用者が、グループホームの利用者に会いに来たり、馴染みの美容院に家族と外出したり、祝い事の際に、赤飯を作り、近所の方々に配ったりしている。また、法事への参加や、疎遠になっている子供さんへ手紙を出していただけるよう働きかけたり、様々な形で、(馴染みの)関係継続支援に努力している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の居場所が決まって来たり、食事は全員で食堂で食べ、顔を合わせる機会を作っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所した方の居宅ケアマネより、退所後の様子を聞くことがある。・ホームへ移転した方へは(家屋が近いので)ときどき面会している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活の流れがわかって来たので、本人の思いに沿って行っている。本人の話を良く聞いたり、家族に様子を報告しアドバイスを頂いたりと施設で出来る事は努力している。	利用者との職員との会話は可能な状況である。利用者の入浴時や個別的な関わりの時に、意向や希望を聞くなど把握に努め、利用者の思いを家族に伝えるなど、実現するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に伺っているが、入所後の生活の様子を見ながら、家族から再度伺うこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌に日々の様子を書きながら、状態の把握に努めている。朝・夕のミーティングにて担当者どうしの申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・毎月の職員会議に、ケアの困難な所を出しその都度話しあっている。また担当者会議も行き、計画の評価を行っている。 ・家族からの意見も求めている。	事業所は、3ヶ月ごとに、ケアプランの見直しをしている。職員は、担当制で、利用者の生活の様子を把握している。担当者会議で話し合いを持ち、そこで作成した「施設計画作成書」で、家族に利用者の状況を説明し、意見を聞くようにしている。急変時等には、家族に電話連絡をして対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケース記録を活用したり、朝・夕の申し送りによって生活の様子を共有している。 ・毎月の会議で利用者一人一人の目標を確認しまた評価している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	夏場は16時からの夕方入浴を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・市の移動図書館を利用している。 ・家族協力にていきつけの美容院に行ったりと協力を得ている。 ・散髪は近隣の理容店に来所いただいている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療等を活用したり、家族から通院の支援をいただいたりしている。	訪問診療が、利用者のかかりつけ医となっている。整形外科、耳鼻科、歯科等への受診が必要なときは、家族に連絡を取り通院していただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・訪問看護が定期的巡視(週1回)で来所し入所者の状態を報告し、変化等があれば、主治医に報告している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院等があった場合は、情報提供することももちろんのこと、入院中は訪問し様子を伺うなど、退院等についても看護師に聞き、家族とも相談している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入院後の状態変化により、主治医・家族と相談し、特養の入所等の申し込みを行ったケースがある。施設で出来ないことは伝えているが、家族の希望も伺っている。 ・終末期のあり方については、特に決めていないが、医療的な関わりが多い場合は受け入れが困難である事は説明している。	終末期ケアは、訪問診療、訪問看護と連携することにより事業所として取り組める体制となっている。入居時に、事業所として「できること」「できないこと」を家族に説明し、特別養護老人ホーム等の利用について申し込みをしたケースもある。利用者の状態に対応したベストな介護を提供することを目指して、ケアに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急マニュアルを作成している。 ・定期的な訓練は行っていない。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的避難訓練を行っている。 ・地域に特養の防火協力隊があり、9月に合同避難訓練を行っている。	ホーム独自で、薄暮時に夜間体制の避難訓練を実施している。法人の特養ホームで依頼している地域防火協力隊が20名程、更に職員2名の協力のもと、定期的な合同避難訓練も実施している。スプリンクラーや、通報装置は設置しており、非常食は特養ホームに保管している。	防火体制は万全を期しているが、頻繁にある地震への対策も力を入れたい。大地震を想定した避難行動等について、運営推進会議や、職員ミーティング等で機会を見て話し合い、共有することを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助や支援の場面において、利用者の配慮には留意している。	人生の先輩である利用者の誇りを損ねない声かけを心がけて、介助や支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・介護者のペースで話すことが無いように留意し、利用者の話をゆっくりと聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課表をある程度の基準としているが、全てその限りでは無く、利用者本人の意向を伺いながら行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者と職員がともに外出し本人に衣類等を選んでもらい購入する機会や、入浴時に着替えの衣類を選んでもらったりしている。洗髪後は、頭髪の乾燥後鏡の前で整えてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・献立作成時には、希望を聞いている。 ・食事は職員も一緒に食べている。 ・食器拭きやテーブル拭きを利用者の方と一緒にすることがある。	献立は、利用者に希望を聞き、それを集約して希望に沿った形で作成している。調理専門の職員が調理を行っている。食事時は、職員も同じテーブルで、一緒に食べている。手伝いの出来る方は、ふきの皮むきや、いんげんの筋取り、梅干つくり等を手伝ってもらっている。また、食後のテーブル拭きも行って頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・献立は職員が立てるが、特養の管理栄養士に栄養面・バランス等の確認をもらっている。 ・食事摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きや舌の洗浄を行ってもらっている。その際には入れ歯も本人に洗ってもらっている。夜間は入れ歯を保管している。入れ歯は週2回洗浄剤で消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食前食後の排泄介助・随時の介助等を、排泄記録用紙に記録し対応している。	利用者個々の「排泄チェック票」により排泄パターンを把握して、適切な排泄介助を行っている。パットやオムツの交換等のタイミングも、こまめに観察し、家族負担軽減にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・朝食後の排泄介助・水分補給・下剤の服薬確認等を行っている。 ・排泄の状況は適時訪問診療や訪問看護の来所時に報告している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・夏は夕方16時入浴、冬は14時入浴。 ・1人週3回入れるように計画している。 ・本人の拒否があれば、次の日に声がけしている。足浴を実施することもある。	入浴は、1日おきに、夏は夕方4時から、冬は午後2時から行っている。衣類の着脱は、利用者が出来るところは自分で行って頂き、必要以上の介助はしないよう心がけている。職員の提案で、風呂場の手すりを改善し安心して入浴が行われている。拒否のある方には、声がけの工夫などを行い、入浴して頂けるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬期間は、「足が冷たくて眠れない。」と訴える入所者には、湯たんぽやホットタオルで足を温め対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・内服はほとんどの方が服薬している。 ・内服の変更時は、薬の効能や用法を申し送り、服薬確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	モップ掛けや、洗濯物・タオルたたみなど、依頼できる物をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・施設では、母体の特養ホームからリフト車や軽自動車を借りて、地域行事へ参加している。近所への散歩、公園へのドライブ等を行っている。また入所者の自宅やその付近まで出掛けることがある。	事業所の近辺を散歩して、気分転換を図るようにしている。利用者の希望があれば何時でも散歩できるようにしている。近所の散歩に出かけ花を頂いたり、種をもらうこともある。また、買い物ツアーや、月1回のドライブにより、さくらホールのイベントや鬼の館などに出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金のしくみを設けて、希望や必要に応じて使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所者が「〇〇へ電話を掛けたい。」と訴えた際には、本人に電話番号を確認しかけた相手の了解を得て通話している。また家族からのはがきや手紙は本人に手渡し読み上げている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示スペースを利用し、普段の様子・行事等の写真を貼付している。</li> <li>・個人の作品も展示している。</li> <li>・玄関前に季節の花を植えている。</li> </ul>	リビング入り口付近の展示スペースに、利用者一人ひとりのアルバムが並べてあり、家族・知人が面会に来られた際などに見ることができ、暮らしぶりを窺い知ることが出来る。ウッドデッキからは、保育園児の散歩姿が見え、また母体(特養ホーム)の庭で行う、夏祭りの花火大会が見えるようになっている。展示スペースには更に、様々な行事の作品・写真が、たくさん展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	こたつ・ソファの利用や食堂テーブルの定位置で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やぬいぐるみなどを置いている。	事業所全体が床暖房で、各居室には電動ベット・ロッカー・照明台・壁時計が設えてある。ご主人の位牌や、家族の写真、ぬいぐるみなどが持ち込まれ、温かい雰囲気を醸し出している。全体的にすっきりとした感じがする居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着替えや歯磨きなど自分で行っている。</li> <li>・手すりの設置により、歩行支援をしている。</li> <li>また、浴室にも手すりを増設置し安心の基入浴出来るようにしている。</li> </ul>		